

<p>全体講評： 難易度は昨年並みとしたがやや易化。 全体的な分量としては昨年並み。例年通り標準的な良問での構成だが複素数平面の軌跡や整数問題あたりでは、受験生の得意・不得意によっておおきな差が出ただろう。</p>		<p>試験時間</p> <p>120 分</p>		
		<p>難易変化</p> <p>易化 / 昨年並 / 難化</p>		
		<p>分量変化</p> <p>減少 / 昨年並 / 増加</p>		
大問	区分	内容	講評	レベル
問 1	数Ⅱ	三角関数	(1)は 3 倍角の公式の利用でもよい。 (2)は解答にあるように a の 1 次関数とみなして考えるとスマート。	★
問 2	数Ⅲ	複素数平面	複素数の問題としては、実は標準的な難易度なのだが受験生には苦手にしてている人が多いので慣れておきたい。	★★
問 3	数 A	整数問題	合同式が使えると考えやすくなる。 条件を使って絞り込むなど、整数問題における「定石」を学んでおきたい。	★
問 4	数Ⅲ	極限・体積	(2)の体積計算は面倒に見えても入試では標準的である。	★
<p>学習指針： 良問を幅広く勉強しておきたい。苦手分野を作ってしまうと出題されたとき、それに大きく左右されてしまうので、偏りのない学習を心掛けたい。 記述形式の問題対策として、日頃から丁寧な勉強が望まれる。</p>			<p>※ 難易変化、並びに分量変化は対昨年比と なっています。</p> <p>※ レベル表示は次の区分になります。</p> <p>難 → ★★★★★</p> <p>やや難 → ★★★</p> <p>標準 → ★</p> <p>やや易 → (無表示)</p> <p>易 → (無表示)</p>	